

4年ぶりの夏休みで

東北4大祭りを体験！

【はやぶさに乗り込む！】

新型コロナウイルス感染症対策等により、ここ3年間は夏休みを取ることも忘れるくらい忙しい日々でした。今年は4年ぶりに夏休みをいただき、東北4大祭りを見に行ってみました。旅行会社を利用し、18人という少人数でのツアーに参加しました。8月4日(金)午前9時32分大宮発はやぶさ11号に妻と一緒に乗り込みました。

【プロの対応力】

新幹線の中で女性ふたり連れが、私達の3連席の通路側と前の列の通路側の前後の席に別々に座っていました。しばらくすると「ふたり一緒じゃないからつまらない！何で料金は同じなのに私達は別なのか、帰る！！」と子どもみたいなクレームを添乗員に言い出しました。

さて、添乗員はどうするのか？私達が席を代わってやるのがいいかな？と考えていると、添乗員はすぐに動きました。あと少しで盛岡、必ず席が開くと踏んでの行動であったのか？「会社の方に相談してきます。」と言い、盛岡に停車すると「お客様、大変申し訳ございませんでした。おふたりが楽しめるよう一緒に座れる席を用意しました」と言い、上手くなだめました。「帰る！！」と言っていたふたりは嬉しそうにその席に行きました。やはり添乗員はプロであります。機転を効かせた行動に感心をしました。

【あつい！青森のねぶた祭り】（8月4日）

やって来ました、青森市。暑い！何と気温34℃！青森市がこんなに暑いとは驚きでした。

というのも、今から18年前のゴールデンウィークに、弘前城へ桜を見に来た時、青森市の公園や空き地の至る所に土の山がありました。なぜ土の山があるのか聞いてびっくり。それは、冬の間積った雪を小高く積んで片付けたものが、まだ解けずに残っていたのでした。その印象が頭に残り、青森市は寒いと思い込んでおりましたが一気に覆されました。

ねぶた祭りを観るために早めの夕食を取り、青森市役所前の座敷席(1人3,400円)に入りました。座敷席は4車線道路を2車線にして、パイプ椅子を並べて作られていました。いよいよ「ねぶた祭り」の開始です。



【町内会と企業が組んで出品しています】

迫力ある「ねぶた」の光の装飾を間近で観ると、細かい先々まで光らせており、制作者の並々ならぬ技術とこだわりを感じられました。



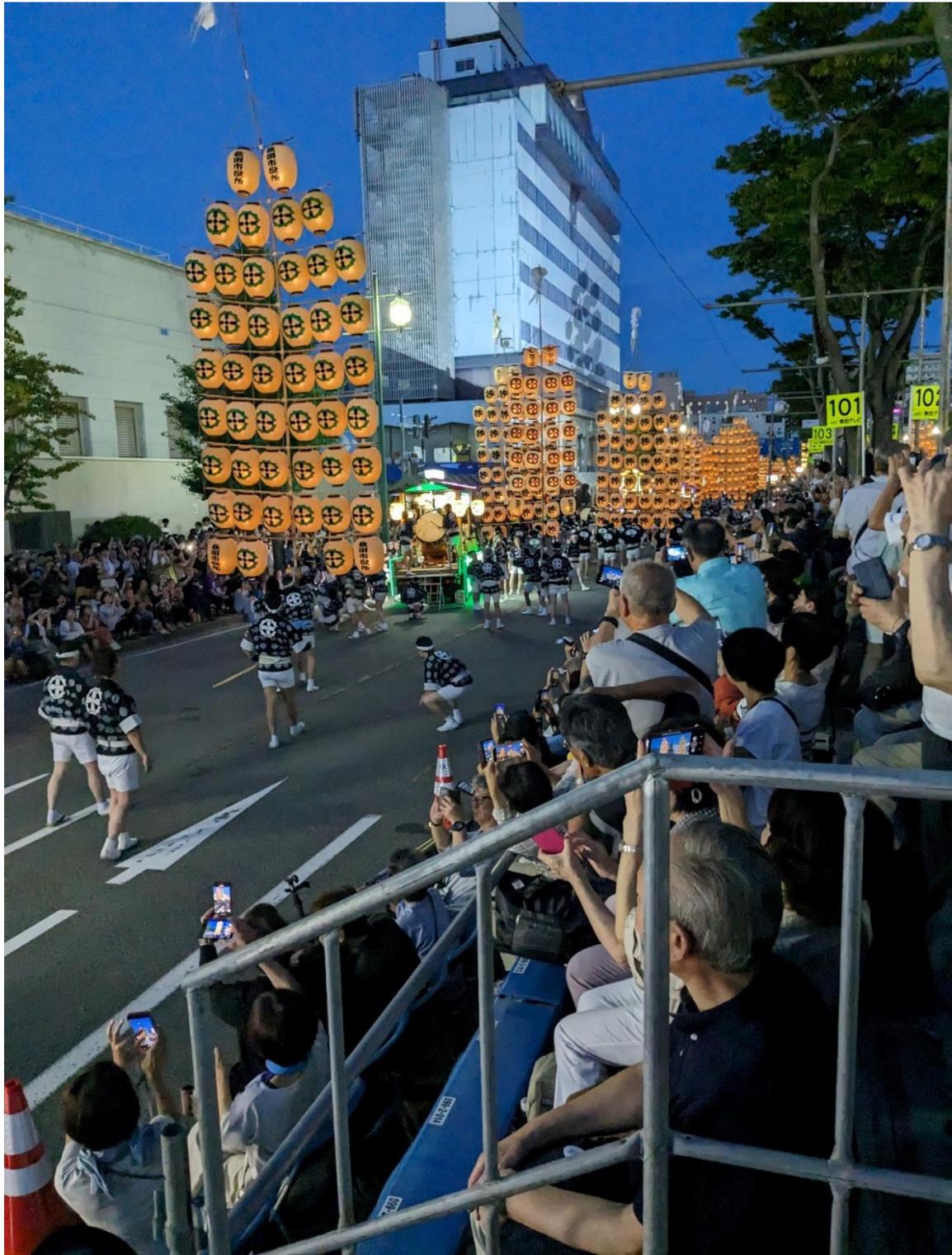
【ねぶたの太鼓とお囃子 ↑】



【後ろに続く跳人(祭りの踊り手) ↑】

引手の労力とお囃子と跳人がマッチして「ラッセラー、ラッセラー」の掛け声に、祭りは最高潮に達します。東北津軽の短い夏を力いっぱい表現した迫力あるねぶた祭りを座敷席で堪能しました。

【秋田の竿灯祭り】 (8月5日)



【竿灯祭りの様子（提灯には本物のロウソクが入っています）】

2日目は、秋田市の「竿燈祭り」です。秋田銀行の目の前の座敷席(1人4,000円)に座りました。50kg以上もある竿燈を肩や額、腰でバランスを取りながら魅せるまさに曲芸の域である竿燈祭りでした。こちらの掛け声は「どっこいしょ〜どっこいしょ」と力強く、大人だけでなく小さい子供も参加している姿に、伝統が守られ、引き継がれていると感じました。

【山形の花笠祭り】 (8月6日)

3日目は、山形市の「花笠祭り」です。観覧席(座敷席)はありませんでした。観覧者は歩道から声援を送ります。私は、山形市郵便局の前のエントランス(1メートル程の高台)に陣取り、花笠踊りの各団体の踊りを鑑賞しました。

この花笠音頭の「やっしょーまかしょ」の掛け声は、「やりましょう、まかせてもらいましょう」という意味だそうです。山形市民の心意気が歌われている唄であります。各団体が思い思いの掛け声やアレンジをされて踊っていました。



【花笠踊りの様子 ↑】

大人数で踊る花笠祭りは、参加者が皆、楽しそうにやっているのが印象的で、観ているこちらも楽しくなりました。祭りをやるならコレだな！とつくづく思いました。明和町も「やっしょーまかしよ」「やりましょう、まかせてもらいましょう」の精神で盛り上がったら最高ですね。

【仙台の七夕まつり】（8月7日）

最後は、^{もり}杜の都の夏を彩る仙台市の七夕祭りです。「杜の都」の「杜」とは、“山などに自然に生えている樹木や草花だけではなく、その町に暮らす人々が協力し合い、長い年月をかけて育ててきた豊かな緑のこと。「杜の都」と表すところに、「神社や寺、屋敷のまわりを取り囲んでいる『緑』、人々がていねいに手入れをしてきた『緑』こそが仙台の宝」という市民の想いが込められている”と言われているそうです。



【仙台七夕祭りの飾り付け ↑】

七夕まつりは静の祭りです。きらびやかな七夕の飾り付けがされ、仙台駅の西側である青葉通りの北側アーケード数本に及ぶ規模は、広すぎて回りき

れませんでした。その規模はさすが仙台とうなせませす。また、圧巻の飾り付けにも脱帽です。飾りは、全て和紙で出来ているそうです。仙台ならではの、きらびやかさと誇りを感じました。

それはかつて、外様大名ながら伊達藩として栄えた伊達政宗（仙台藩 62.6万石 “独眼竜”で知られる）の英知が反映されているかのようであります。伊達藩は、東北の三陸地方に豊かな漁場、北上川が仙台平野にもたらす肥沃な土地、江戸に物資を運ぶ海運など、潤沢な経済基盤を持ち、内高は 100 万石を超えていたというから驚きですね。



【伊達政宗公象（青葉城城址公園）】

そして、仙台駅 18 時 40 分発の新幹線に乗り、東北 4 大祭りツアーは幕を閉じました。65 歳の私には、少々ハードな弾丸ツアーでした。

令和 5 年 8 月 31 日

明和町長 富塚もとすけ